

東京大学医科学研究所倫理審査委員会第一委員会 令和元年度第4回議事要旨

日時： 令和元年9月19日（木） 10：00～13：00
場所： 1号館2階 2-1会議室
出席者： 成澤、大津、佐々、加藤、井元、平田、井上の各委員
欠席者： 長村（文）委員長
陪席者： 神里研究倫理支援室准教授、
上原研究支援課長、研究推進チーム鶴岡係長、菅原一般職員、松岡一般職員

（議事）

1. 倫理審査申請書の審査について

(1) 2019-25「ヒト末梢血単核球を用いた免疫賦活化物質による免疫応答機構の解析と細胞外微粒子の解析」（新規）

（申請者：ワクチン科学分野・教授・石井 健）

研究分担者である小檜山 康司 准教授 から、本件の申請内容および事前審査による委員からの以下の指摘への対応について説明があった。次いで、委員より、口頭で撤回希望を受けた場合には必ず記録を取るよう、意見があった。審議の結果、特に問題等の指摘はなく、これを承認することとした。

【事前審査意見】

＜研究計画書＞

- ・採血量について、過量採血とならないように、上限だけでなくその間隔についても記載すること。
- ・3について、「～の具体的指標して」の脱字を修正すること。
- ・5.1)について、対象者の説明をわかりやすく修正すること。
- ・7.1)について、「意志」を「意思」に修正すること。
- ・8.2)について、個人情報保護責任者の正式な職名を記載すること。
- ・11.1)について、「遺伝的徴等」の脱字を修正すること。

＜説明文書＞

- ・同意の撤回方法について、郵送や口頭のオプションおよび連絡先の記載を追加すること。
- ・「ご協力いただきたい内容と方法」について、採血の間隔や上限、具体的な採血量を、研究計画書に合わせて追記すること。
- ・「研究結果の公表」について、「あたな」を「あなた」に修正すること。

＜募集用ポスター＞

- ・「アジュバント」の説明を追記すること。

＜その他＞

- ・医科研病院で看護師が採血できる時間帯は夕方に限られているため、実施にあたっては参加者と時間に関する認識に齟齬がないよう留意すること。
- ・被験者の採血量はできるだけ少なくするよう留意すること。

(2) 2019-27「先天性男性生殖器疾患・性分化疾患・生殖機能障害の遺伝子解析による疾患成立機序の解明と新規治療法の開発」(新規)

(申請者：医科学研究所・連携教授・松田 浩一)

申請者である松田 浩一 連携教授 から、本件の申請内容および事前審査による委員からの以下の指摘への対応について説明があった。審議の結果、特に問題等の指摘はなく、これを承認することとした。

【事前審査意見】

<研究計画書>

- ・3について、「およびを」の誤記を修正すること。
- ・11.3) に、遺伝カウンセリングについては、提供元の医療機関で対応が検討される予定である旨を記載すること。

<説明文書>

- ・研究計画や実施施設に医科学研究所が記載されていないのはなぜか、回答されたい。

<その他>

- ・研究全体の責任者はどなたなのか(主たる研究機関はどこなのか)、また、研究全体をカバーする研究費は何か、回答されたい。
- ・所内研究者の責任体制がどのようになっているか、回答されたい。
- ・専門的な解析を必要とする場合とは具体的にはどのような場合を想定しているのか、また、共同研究機関に専門的な解析を依頼する際の検体・情報の管理方針について回答されたい。
- ・研究全体の対象者数について、回答されたい。

(3) 2019-28「BBJ 試料・情報を活用した「AI ホスピタルシステム」の構築とその活用に関する共同研究」(新規)

(申請者：医科学研究所・連携教授・松田 浩一)

(一括審査依頼研究機関：2019-28-01：株式会社 情報通信総合研究所

2019-28-02：エヌ・ティ・ティデータ経営研究所

2019-28-03：NTT コミュニケーションズ株式会社

2019-28-04：NTT データ

2019-28-05：ヒュービットジェノミクス株式会社

2019-28-06：株式会社日立製作所 ヘルスケアビジネスユニット

2019-28-07：日本ユニシス株式会社)

申請者である松田 浩一 連携教授、また、分担者である 情報通信総合研究所 大平 弘 代表取締役社長および NTT コミュニケーションズ 櫻井 陽一 担当課長から、本件の申請内容および事前審査による委員からの以下の指摘への対応について説明があった。次いで、同意撤回の機会の確保、データの安全管理・保管場所、共同研究機関における倫理研修および利益相反審査の方法等について質疑応答が行われた。審議の結果、2019-28および2019-28-01~06については、特に問題等の指摘はなく、これを承認することとした。また、2019-28-07については、以下の委員会からの指摘事項に対応することを条件に承認することとした。

【事前審査意見】

2019-28

<研究計画書>

- ・医科研と BBJ の関係、BBJ で対応する研究者、匿名化の方法、情報管理の責任体制等について、わかりやすいように追記すること。
- ・3について、共同研究機関名の誤記を修正すること。

- ・3について、本文の内容と図が整合するように修正すること。また、本文中の「AI ホスピタル」や「医療機関」が具体的にどこを指しているのか、回答されたい。
- ・12.1)について、医薬基盤研が受けている内閣府の SIP AI ホスピタルという研究費を使用するという意味かどうか、回答されたい。

<情報公開文書>

- ・「人口」を「人工」に修正すること。

<その他>

- ・本研究内容が当初の説明・同意取得に含まれている範囲内であるかどうか、回答されたい。

【委員会からの指摘事項】

2019-28-07

- ①【書類1.当機関概要】の「6. 利益相反の審査方法」について、自己審査ではなく第三者が審査を行う体制を検討すること。
- ②【書類2.当機関所属の研究責任者履歴書】の「3. 専門領域」について、記載すること。

(4) 29-74 「バイオバンク・ジャパンの運営・管理と個別化医療の実現に向けた疾患バイオマーカー探索」(変更)

(申請者：人癌病因遺伝子分野・教授・村上 善則)

研究分担者である松田 浩一 連携教授 から、本件の変更内容および事前審査による委員会からの指摘は無かったことについて説明があった。次いで、研究体制等について質疑応答が行われた。審議の結果、これを承認することとし、以下の点について修正した上で差し替えるよう申請者に伝えることとした。

なお、本研究の研究分担者である井元副委員長は、本件の審議・採決に不参加であり、本件の議事進行は、副委員長から指名があり井上(悠)委員により行われた。

【委員会からの指摘事項】

- ① 研究計画書「3. 方法」および情報公開文書について、「人口」を「人工」に修正し、差替えること。

(5) 2019-26 「インフルエンザに対する感受性に関わる因子の解析」(新規)

(申請者：ウイルス感染分野・教授・河岡 義裕)

(審査依頼研究機関：2019-26-01：クリニックばんびい)

研究分担者である岩附 研子 助教 から、本件の申請内容および事前審査による委員会からの以下の指摘への対応について説明があった。また、本申請と関連して、29-40(変更)「医科学研究所血清バンクの構築」の研究計画書等の追加修正について、神里研究倫理支援室准教授より補足説明があった。次いで、血清バンクの試料の海外提供予定の有無、対象者数等について質疑応答が行われた。審議の結果、以下の委員会からの指摘事項に対応することを条件に承認することとした。

なお、本研究の研究分担者である井元副委員長は、本件の審議・採決に不参加であり、本件の議事進行は、副委員長から指名があり井上(悠)委員により行われた。

【事前審査意見】

2019-26

<研究計画書>

- ・3について、血清バンクの試料から RNA/DNA の採取が可能か、またその同意はとられているのか、回答されたい。また、ゲノム解析や他機関への検体の送付については、採取時に説明をされていない場合には、オプトアウトでは対応不可、個別に同意が必要ではないか、回答されたい。

<説明文書>

- ・「抗体価」、「microRNA」、「抗体応答」等、専門用語に説明を追記すること。
- ・「1. 研究の目的」について、「あなたがどの様なウイルスに感染したか」を「あなたがこれまでにどの様なウイルスに感染したか」に修正すること。
- ・「2. 研究の方法」について、「解析結果が外部へ漏れることはありません」は「個人情報がある～」または「解析結果および個人情報が～」ではないか、検討願いたい。
- ・「6. プライバシーの保護について」について、「対照表」を「対応表」に修正すること。
- ・「10. 検体の取扱方針」について、「～貴重な検体ですので、」の後に、「あなたの同意が得られれば、」という文言を追加すること。

<同意書>

- ・「情報を開示してください」、「情報を開示しないでください」の表記では、提供者に直接連絡がなされるという旨が伝わりにくい、あるいは第三者的に開示されるように誤解される懸念があるため、わかりやすい表現に修正すること。
- ・研究終了後の検体の長期保存についての諾否の項目を追加すること。
- ・ボランティアの協力者に追加で採血／唾液の回収をお願いする可能性があるということは、住所や電話番号などの連絡先を伺うことになるはずだが、記載欄が無いため、対応を検討願いたい。

<アセント文書>

- ・「3. どのようなことをするの？」について、「血(ち)」をとる人(ひと)」は「採血する側の人」のように誤解される恐れがあるため、記載の削除を検討願いたい。

<フローチャート>

- ・業務委託先企業名についての記載が無いが、どのような関係であるのか、また、最下段の「委託会社」は未定ということなのか、回答されたい。

<募集用ポスター>

- ・タイトルについて、「東京大学医科学研究所（医科研）」の記載を追加すること。

<その他>

- ・健康診断時の採血の実施について、医科研血清バンクや健診実施業者と合意ができているか、回答されたい。
- ・文書による説明が健診時となっているが、説明場所や説明者等の確保が健診実施に支障がないように実施可能か、回答されたい。
- ・職員から採血する目標人数 1000 人が、達成可能数か、回答されたい。
- ・採血時に有害事象が発生した場合にどの医師が対応するのかは既に検討されているか、回答されたい。
- ・米国共同研究機関における研究については申請書に記載されておらず、また、患者血清に耐性をもつウイルスの作成は倫理的に大きな問題があり、研究内容を逸脱しているのではないかとと思われるため、この内容で研究を行うには別途このことを明記して同意を得ることが必要ではないか、検討願いたい。
- ・他事業から試料・情報の提供を受ける場合、対応表の管理はどこが行うのか、回答されたい。
- ・5年間で「健康な人」2000人を対象とするとしているが、この間に状況に変化があった場合はどのように位置付けられるのか、また、数の達成は現実的か、回答されたい。
- ・試料・情報が海外提供されることについて、同意又は情報公開を行うこと。
- ・自発的に試料提供を申し出る方が200名となっているが、少しでも声掛けをしたりするのであれば、実態に合わせた記載に修正すること。

【委員会からの指摘事項】

2019-26

- ①事前審査意見への回答書について、「文書による説明が～」の質問への回答の記載を、適切に修正すること。

- ②偶発的所見および抗体価等の解析結果の開示方針について再検討し、必要に応じて説明文書等の関連する記載を修正すること。
- ③同意書について、保管に関する同意選択が、研究協力に関する選択よりも目立っている点を改善すること。その際、同意書の前文を調整しつつ、研究協力への同意の可否を尋ねる項目を追加すること。また、研究期間終了後の検体の保管の可否だけでなく二次利用の可否についても明記すること。
- ④フローチャートについて、「分担研究者の医院」および「委託会社」に、具体的な医院名・社名を追記すること。

(6) 2019-29「複数の癌部位からのシーケンスデータを用いた、高精度なゲノム変異検出手法の開発」(新規)

(申請者：健康医療データサイエンス分野・教授・井元 清哉)

申請者である井元 清哉 教授および研究分担者である森山 卓也 大学院生 から、本件の申請内容および事前審査による委員からの以下の指摘への対応について説明があった。審議の結果、特に問題等の指摘はなく、これを承認することとした。

なお、本研究の申請者である井元副委員長は、本件の審議・採決に不参加であり、本件の議事進行は、副委員長から指名があり井上(悠)委員により行われた。

【事前審査意見】

<研究計画書>

- ・共同研究機関の承認期間に合わせて、本申請の研究期間を変更すること。

(7) 29-47「難治性造血器疾患の病態解明と診断向上を目的としたオミクス解析」(変更)

(申請者：ヒトゲノム解析センター・教授・宮野 悟)

研究分担者である片山 琴絵 助教 および 井元 清哉 教授から、本件の変更内容および事前審査による委員からの以下の指摘への対応について説明があった。次いで、情報公開の可否等について質疑応答が行われた。審議の結果、特に問題等の指摘はなく、これを承認することとした。

なお、本研究の研究分担者である井元副委員長は、本件の審議・採決に不参加であり、本件の議事進行は、副委員長から指名があり井上(悠)委員により行われた。

【事前審査意見】

<フローチャート>

- ・共同研究機関を明示すること。

<その他>

- ・情報の解析における共同研究機関の役割が不明のため、利益相反の点で問題がないかを確認すること。
- ・難病プラットフォームに臨床情報とオミクス解析結果が送られることについて、検体採取した場所で匿名化されると、これらは関連付けられないのかどうか、回答されたい。

(8) 30-8「人工多能性幹(iPS)細胞を活用する疾患病態解明および治療法開発研究」(変更)

(申請者：再生医学分野/幹細胞プロセッシング分野/ステムセルバンク・教授・谷口 英樹)

研究分担者である上野 康晴 特任助教 から、本件の変更内容および事前審査による委員からの以下の指摘への対応について説明があった。審議の結果、これを承認することとし、以下の委員会からの指摘事項について修正した上で差し替えるよう申請者に伝えることとした。

【事前審査意見】

<研究計画書>

- ・適用指針について、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」にもチェックを入れること。
- ・2について、「【意義】」の文章を整理すること。
- ・11.3) の遺伝カウンセリングの担当者の記載について、記載が切れている部分を修正すること。

<説明文書>

- ・表紙の囲み内の文章について、閉じカッコの記載漏れを修正すること。
- ・iPS細胞の所有権や知財としての利用について、説明を追記すること。
- ・参加者が将来的に病気になった場合、ステムセルバンクに保存された本人のiPSを治療用に使うことを請求できるのかどうか、説明を追記すること。

【委員会からの指摘事項】

- ①説明文書の表紙の囲み内の文章について、課題名の丸カッコを削除し、差替えること。

(9) 27-73 「5-アミノレブリン酸を用いた末梢血循環がん細胞の検出法確立にむけたパイロット研究」 (変更)

(申請者：ALA 先端医療学社会連携研究部門・特任教授・谷 憲三朗)

研究関係者である三浦 由恵 非常勤講師および研究分担者である宮本 将平 特任助教から、本件の変更内容および事前審査による委員からの以下の指摘への対応について説明があった。審議の結果、以下の委員会からの指摘事項に対応することを条件に承認することとした。

【事前審査意見】

<研究計画書>

- ・3.2) について、専門業者に解析を依頼する旨の記載を、変更申請書の記載と整合するように修正すること。また、文章の消去が不完全な部分を修正すること。
- ・6.4) について、研究参加者に支払う謝金額を実態に合わせて記載すること。

<説明文書>

- ・「4. プライバシーの保護について」について、「対照表」を「対応表」に修正すること。
- ・「7. 研究に協力することによる利益と不利益」について、「お渡しさせていただきます」を「お渡しいたします」に修正すること。

<フローチャート>

- ・解析を依頼する機関を追記すること。

【委員会からの指摘事項】

- ①研究分担者について、最新の情報に更新すること。

(10) 30-5 「ATLにおけるメチル化ヒストンの定量と新規阻害薬のバイオマーカー探索」 (変更)

(申請者：分子療法分野・教授・東條 有伸)

研究分担者である内丸 薫 連携教授 から、本件の変更内容および事前審査による委員からの以下の指摘への対応について説明があった。次いで、対象者、研究期間終了後の試料の保管等について質疑応答が行われた。審議の結果、これを承認することとし、以下の委員会からの指摘事項について修正した上で差し替えるよう申請者に伝えることとした。

【事前審査意見】

<研究計画書>

- ・共同研究機関との関係が明確になるように記載を修正すること。
- ・共同研究者間でのデータの共有・利用形態、事後の取り扱い等について追記すること。

- ・5.1)について、研究計画1,2,3で参加者に重複があるかどうかが明確になるように記載を修正すること。また、「同意能力があると判断される成人」の人数「約31名」を「約30名」に修正すること。
- ・9.1)について、計画3の試料は使い切ってしまうため研究期間終了後の保管試料はないとされていますが、一方で「論文発表した場合には～5年間保管する。」と記載されているのはなぜか、回答されたい。
- ・12について、利益相反を確認すべき企業に記載漏れが無いのか、確認すること。また、メーカーとデータを共有しても「利益相反なし」とする根拠は何か、回答されたい。

<説明文書(計画3)>

- ・「研究の目的と方法」について、「H3K27me3」と「H3K27」との関係を回答されたい。また、患者さんにわかりやすいよう、メチル化の説明「H→CH₃に置換すること」は「分子の一部が変わること」など、平易な表現に修正し、また、「確かな再現性をもって」は削除することを検討願いたい。

【委員会からの指摘事項】

- ①申請書「9.1)②研究期間終了後」について、「研究成果を論文発表した場合には」の前に「残余検体があった場合、かつ」と追記し、差替えること。

(11) 29-25 「非小細胞肺癌におけるニボルマブ単剤療法の臨床効果と正の相関または負の相関を示すトランスクリプトーム・シグネチャーの網羅的解析」(変更)

(申請者:健康医療計算科学分野・教授・宮野 悟→ゲノム医科学分野・教授・柴田 龍弘)
研究分担者である新井田 厚司 講師 から、本件の変更内容および事前審査による委員からの以下の指摘への対応について説明があった。審議の結果、以下の委員会からの指摘事項に対応することを条件に承認することとした。

【事前審査意見】

<説明文書>

- ・検体が医科学研究所に送付される旨を記載すること。

<フローチャート>

- ・Windowsでもファイルが開けるように、ファイル形式を変更すること。

<利益相反自己申告書>

- ・研究課題名が異なっているため、確認されたい。
- ・研究分担者の申告書提出が漏れているため、対応されたい。
- ・利益相反を確認すべき企業に記載漏れが無いのか、確認されたい。

<その他>

- ・研究代表者の研究倫理講習会受講証の期限が切れているため、対応されたい。

【委員会からの指摘事項】

- ①変更申請書について、「変更点・変更理由」を詳細に記載すること。
- ②フローチャートについて、図が鮮明になるよう、矢印に枠を付ける等工夫をすること。
- ③研究責任者について、研究倫理研修を受講すること。

(12) 29-1 「網膜変性疾患における網膜自己抗体の検討」(変更)

(申請者:再生基礎医科学国際研究拠点寄付研究部門・特任教授・渡邊 すみ子)
申請者である渡邊 すみ子 特任教授 から、本件の変更内容および事前審査による委員からの以下の指摘への対応について説明があった。審議の結果、特に問題等の指摘はなく、これを承認することとした。

【事前審査意見】

＜フローチャート＞

- ・共同研究機関の記載漏れを追記すること。

＜説明文書＞

- ・「いつ」「どれぐらい」採血が行われるのか、また、診療上必要な採血の際に1度だけ10ml追加でいただくのか、この研究のために新たな採血機会を設けるのか、が明確になるように記載すること。
- ・診療情報を使用する旨も明記すること。
- ・「2. 研究の方法」について、「残余病理標本を用いた研究は、～匿名化は行いません。」の一文を削除すること。また、「～廃棄される。」を「～廃棄されます。」に修正すること。
- ・「5. 予想される研究の利益～」について、「必要な検査は採血のみとなります。」の「検査」という言葉が適切か、検討願いたい。
- ・「7. 健康被害が発生した場合に～」について、貧血などが起こった際には対応する旨を記載するよう、検討願いたい。
- ・「9. 費用負担について」について、「費用は発生しません。」を「この研究にかかる費用は研究費により支払われますので、あなたのご負担はありません。」に修正すること。

(13) 28-55 「HIV感染症に関する臨床ゲノム情報に関する研究」(変更)

(申請者：感染症分野・教授・四柳 宏)

研究分担者である古賀 道子 助教 から、本件の変更内容および事前審査による委員からの以下の指摘への対応について説明があった。審議の結果、特に問題等の指摘はなく、これを承認することとした。

【事前審査意見】

＜研究計画書＞

- ・東北メディカルメガバンク由来の個人ゲノム情報を用いる可能性があるということで、適切に先方の指示に従った対応をとるよう、留意すること。また、利用する情報が個人情報(個人識別符号)に該当する場合には、利用場所・管理体制について記載すること。

(14) 27-61 「脳神経障害に対する臍帯血・臍帯由来間葉系細胞を用いた新規治療法開発に向けた基盤研究」(変更)

(申請者：セルプロセッシング・輸血部・准教授・長村 登紀子)

申請者である長村 登紀子 准教授 から、本件の変更内容および事前審査による委員からの指摘は無かったことについて説明があった。審議の結果、特に問題等の指摘はなく、これを承認することとした。

【事前審査意見】

＜研究計画書＞

- ・2.2 について、変更箇所は「研究変更申請書」で提示された変更点・変更理由のどれに該当するか、回答されたい。また、変更箇所が文章として完結していない部分があるように見えるため、確認されたい。
- ・2.3 について、「<患者かどうか>」を「<状態別検体数>」等の表記に修正すること。

＜フローチャート＞

- ・ファイルのパスワードを解除すること。

＜その他＞

- ・国外への提供は今回初めての取り組みであるのかどうか、また、提供者への説明または情報公開の方針について、回答されたい。

(15) 29-28 「臍帯血及び臍帯由来細胞等を用いた新規免疫細胞療法の開発」 (変更)

(申請者: セルプロセッシング・輸血部・准教授・長村 登紀子)

申請者である長村 登紀子 准教授 から、本件の変更内容および事前審査による委員からの指摘は無かったことについて説明があった。審議の結果、特に問題等の指摘はなく、これを承認することとした。

(16) 29-40 「医科学研究所血清バンクの構築」 (変更)

(申請者: 分子シグナル制御分野・総務系副所長/教授・武川 睦寛

→癌防御シグナル分野・総務系副所長/教授・中西 真)

研究分担者である長村 登紀子 准教授 から、本件の変更内容および事前審査による委員からの指摘は無かったことについて説明があった。次いで、適用指針、血清の利用申込方法等について質疑応答が行われた。審議の結果、特に問題等の指摘はなく、これを承認することとした。

2. 修正等の報告

委員長から、以下の申請について委員会指摘事項に対する修正の承認について説明があり、了承された。

<平成30年度第一委員会>

・30-80

「先端的磁気共鳴画像と深層学習によるパーキンソン病マクロ神経回路異常の解明」

(申請者: 放射線科・助教・八坂 耕一郎)

<平成30年度第二委員会>

・30-34

「確率論的グラフィカルモデルを用いた神経変性疾患の病態解明に関する研究」

(申請者: DNA 情報解析分野・教授・宮野 悟)

<令和元年度第一委員会>

・2019-2 【パネルA】

「mpMRI を前立腺針生検施行前に施行することの有用性に関する研究」

(申請者: 先端がん治療分野・特任研究員・竹島 雄太)

・2019-8 【パネルB】

「PDX モデルを活用した造血器腫瘍の病態解析」

(申請者: 細胞療法分野・教授・北村 俊雄)

・2019-14 【パネルB】

「ELISA 法による血清抗赤痢アメーバ抗体検査の必要性・有用性に関する多施設共同横断検討」

(申請者: 感染症分野・助教・古賀 道子)

・2019-10 (差替え) 【パネルB】

「非アルコール性脂肪肝および非アルコール性脂肪性肝炎患者を対象とした腸内微生物叢のメタゲノム解析」

(申請者: 自然免疫制御分野・特任教授・植松 智)

・2019-11 【パネルB】

「IgG4 関連疾患データベース構築と臨床データ及び試料解析」

(申請者: 抗体・ワクチンセンター・特任准教授・山本 元久)

・2019-12 【パネルB】

「IgG4 関連疾患の病因・病態解析とその制御戦略へのアプローチに関する研究」

(申請者: 抗体・ワクチンセンター・特任准教授・山本 元久)

・2019-4 【パネルA】

- 「ヒト誘導多能性幹(iPS)細胞を用いたオルガノイド培養法の開発」
(申請者：再生医学分野・教授・谷口 英樹)
- ・ 2019-5 【パネル A】
「ヒト iPS 細胞由来肝芽を用いた移植治療法の研究開発」
(申請者：再生医学分野・教授・谷口 英樹)
- ・ 2019-6 【パネル A】
「ヒト難治癌の特性解析と薬剤評価系の構築」
(申請者：再生医学分野・教授・谷口 英樹)
- ・ 30-97 (修正) 【パネル A】
「悪性腫瘍に対するネオ抗原ペプチドパルス樹状細胞を用いた個別化ワクチン療法の開発
- 製法開発に関する研究 -」
(申請者：ALA 先端医療学社会連携研究部門 谷 憲三朗 特任教授
→総合診療科 松原 康朗 講師)

3. 迅速審査の報告

委員長から、以下の申請について迅速審査により承認された旨説明があり、了承された。

- ・ 2019-9 【パネル A】
「ヒト造血幹細胞増幅と病態再現モデルの構築」
(申請者：幹細胞生物学分野・特任准教授・山崎 聡)
- ・ 2019-18 【パネル B】
「分類不能型骨髓異形成/骨髓増殖性腫瘍に対する同種移植の成績」
(申請者：幹細胞分子医学分野・教授・岩間 厚志)
- ・ 2019-19 【パネル B】
「成人高2倍体急性リンパ性白血病に対する同種移植の成績」
(申請者：幹細胞分子医学分野・教授・岩間 厚志)
- ・ 2019-22 【パネル B】
「抗 HIV 薬の処方状況や検査データの解析」
(申請者：感染免疫内科・助教・安達 英輔)
- ・ 30-83 (変更)
(変更前) 「消化器がん患者における血清ビタミン B1 値」
(変更後) 「がん患者における血清ビタミン B1 値」
(申請者：薬剤部・薬剤師・飯村 洋平)
- ・ 29-33 (変更)
(変更前) 「造血細胞移植医療の全国調査」
(変更後) 「造血細胞移植および細胞治療の全国調査」
(申請者：血液腫瘍内科・准教授・高橋 聡)
- ・ 29-28 (変更) 【パネル A】
「臍帯血及び臍帯由来細胞等を用いた新規免疫細胞療法の開発」
(申請者：セルプロセッシング・輸血部・准教授・長村 登紀子)
- ・ 2019-23
「予後不良染色体 AML 第一寛解期移植における MAC と RIC 比較研究」
(申請者：血液腫瘍内科・助教・小沼 貴晶)
- ・ 29-81 (変更)
「ベッカー型筋ジストロフィーの自然歴調査研究 (ベッカー型筋ジストロフィーの自然歴
調査に基づく予防医学に向けたエビデンスの創出研究)」
(申請者：総合診療科/検査部・特任助教・木村 公一)
- ・ 2019-24
「前向き観察研究に登録された骨髓異形成症候群における、同種移植までの橋渡し治療と
移植成績の検討 JALSG AML/MDS/CMML Clinical Observational Study
(JALSG-CS)-11-MDS-SCT」

- (申請者：血液腫瘍内科・助教・川俣 豊隆)
- 26-65 (変更)
「インフルエンザに対する感受性に関わる宿主因子の同定」
(申請者：ウイルス感染分野・教授・河岡 義裕)
- 30-45 (変更)
「血液製剤により HIV, HCV に重感染した患者の治療の標準化を目指した研究」
(申請者：感染症分野・教授・四柳 宏)
- 28-50 (変更)
「血液製剤による HIV/HCV 重複感染者の肝細胞癌(HCC)合併に関する全国調査」
(申請者：感染免疫内科・講師・鯉淵 智彦→感染症分野・助教・古賀 道子)
- 2019-30
「60歳以上の急性骨髄性白血病に対する臍帯血移植の安全性と有効性の検討」
(申請者：分子療法分野・助教・磯部 優理)
- 2019-14 (変更)
「ELISA 法による血清抗赤痢アメーバ抗体検査の必要性・有用性に関する多施設共同横断検討」
(申請者：感染症分野・助教・古賀 道子)

4. 前回（令和元年度第2回および第3回第一委員会）議事要旨の内容について承認した。

以 上